

## 2023年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>よく考えてくふうする子「問題解決能力」を育成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領及び、町田市教育プラン2024-2028に基づき、子供たちの問題解決力の育成のために基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力等の着実な育成に加え、学びに向かう力に関わる態度の育成の重点化を図る。そのために、教師の授業力・研究力を高め、指導法の工夫改善に取り組む事を通して、児童の学びに向かう力を高め、主体的・対話的で深い学びの創造を図る。</li> <li>・校内研究による教師の指導力の向上と学習スタンダードの確立による主体的な学習態度の育成。</li> <li>・一人一台端末の積極的活用による主体的・対話的で深い学びの授業の創造。</li> <li>・OJTによる教員の資質向上及び各種研修会への参加。</li> </ul>

授業改善の重点
<p>①基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るために、ICT機器やドリル等の効果的な活用を図るとともに、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を通して、児童が自分の考えをしっかりと、それを豊かに表現できるように指導していく。</p> <p>②教科等横断的な視点に基づき、求められる資質・能力を明確にして、単元や1単位時間の各教科の特質に応じた指導計画を作成するとともに、実施後の評価により組織的に改善するカリキュラム・マネジメントを確立させて、教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る。</p> <p>③「授業改善プラン」に記載した具体的な手だてに基づき、指導形態や発展的・補充的学習、教材の工夫をし、授業の質を高めることを通して、学力の確実な定着を図る。また、9年間を見通した「授業改善推進プラン」を策定するために、小中一貫(連携)教育推進地区の小・中学校間で授業参観・研究協議会等を内容とする「小中合同研修会」を年1回設定し、学力に関わる各調査結果の分析・考察に基づく課題と改善策を共有する。</p>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モジュールの時間を活用し、漢字指導を中心とした言葉の特徴や使い方に関わる言語事項の指導を充実させる。</li> <li>○話型を掲示し活用することで、自分の思いや考えを伝え合う力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身体表現を伴った活動を通して拍の流れを感じたり、階名を意識させたりして、音楽表現に必要な基本的な知識が体得できるような指導の工夫をする。</li> <li>○それぞれの発達段階における、心情に合った楽曲で、音楽の楽しさを感じながら表現できる教材選択をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科学習の発展的な活動や地域の歴史や文化、体験活動から学ぶ活動、学年の発達段階に応じた活動の中で、人や地域、自然との関わりの中から、自ら課題を見つけ、解決していく能力を育成する。</li> <li>○Chromebookやその他の情報機器等を活用して、幅広く課題解決や発表ができる力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教育活動を通して、道徳教育を行うとともに、道徳授業で補充、深化、統合して道徳的価値の自覚を深める。特に、規範意識や公共心を高め、人権や命の大切さを考えさせることで互いを認め合い、行動できる道徳的実践力を育てていく。道徳的課題を自己の問題として捉えた上で、課題と向き合う「考え、議論する道徳」の授業づくりを目指す。</li> </ul>
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「社会の一員としての自覚」の育成を目指し、効果的な導入や、対話・振り返りの場の設定をして自分の生活に生かそうとする実践的な態度と心情を養う。</li> <li>○体験したことを地図や図表に表したり、資料と関連付けて考えたりして、知識と体験を結び付けさせる。</li> <li>○個人で調べたことや考えたことを、対話やグループでの話し合い活動によって関連付け、課題解決力を培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発達段階に応じた道具の正しい使い方を身に付ける。</li> <li>○作品制作時に鑑賞の時間を取り入れ、発想を広げたり、様々な表現の在り方を感じ取らせる。</li> <li>○色の効果や形の面白さなどの視覚的な効果や独創性を生かし、文化や自然とかかわる楽しい造形活動を行う。</li> </ul>		
	算数科	家庭科		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京ベータシットドリル診断シートを実施し、既習事項の定着度や課題を確認する。それに伴い、定着率が30%以下(6年生は50%以下)の項目や四則計算の技能を、定着率の向上を図る。</li> <li>○ドリルソフト「Qubena」や、デジタル教科書を活用した授業実践を行い、学力の定着を目指したわかりやすい指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的な実践につながるような授業展開や学習カード等の工夫をする。</li> <li>○自分や友達の意見を認め、学び合える場の設定をする。</li> <li>○用具の安全な使い方や技能の習得に必要な時間を十分に確保する。調理実習では、計画段階や実習の時に掲示物等を活用し、技能面のポイントを確認する。</li> </ul>		
	理科	体育科		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験や観察を重視して、それを補う図・写真・動画を有効活用する。</li> <li>○教え合い、学び合い、協同的な学びを重視する。</li> <li>○実験や観察した結果から、何が分かるかを考えて、まとめる活動を重視する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○できる技を組み合わせたり、できそうな技に挑戦させることで、できた喜びを味わわせる。</li> <li>○目的や目標に向かって、みんなで技能や体力が高まる方法やチームにおける作戦について探求する。</li> <li>○主体的・対話的で深い学びを行えるように、友達の技を見たり、技能のポイントを聞いたりする場面を多く取り入れる。</li> </ul>		
生活科	外国語科(5・6年生)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然や社会に目を向ける機会となるよう、振り返りの場の設定をし、自らの生活に生かそうとする心情を養う。</li> <li>○児童の気付きを重視し、友達の気付きを共有化できる授業の展開を目指す。</li> <li>○活動や体験を通して、友達や自然、地域との関わりをもてる授業の展開を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ALTや友達とのコミュニケーション活動の時間を十分に確保する。</li> <li>○ALTの発問、「CROWN Jr」やCD、絵本教材などを活用して、たくさんの英語に触れたり、話したりする活動を取り入れる。</li> </ul>			

本校の授業改善に向けて	導入の工夫	対話のある授業づくり	効果的なICTの活用
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○解決すべき課題を理解させるために、学習のめあてや学習の進め方を示し、児童の課題解決能力を高める。</li> <li>○本校の児童(学級・学年ごと)の学習課題に合わせて、児童の興味関心を高め、考えを引き出すような導入・発問の工夫を各担任が行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の考えを表出させ、学習中の児童の発言や発表を児童全体に還元することを意識し、児童の考えを共有できるような話し合いの場の設定や、ICTを活用した指導方法の工夫・改善を行う。</li> <li>○児童が互いに認め合ったり称賛し合ったりできるように、教員も意識的に受容、称賛、励ましの言葉を掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一台端末の積極的活用による主体的・対話的で深い学びの授業を創造するために、全学年でChromebookを学習に積極的に取り入れる。また、プログラミング的学習を1年生から行っていく。</li> <li>○算数指導者用デジタル教科書を全学年で活用することで、児童の学力向上を目指す。</li> </ul>

各校の授業改善に向けて3点、設定する。  
なお主な視点として授業をデザインする8つの  
取組をもと主体的・対話的で深い学びの実現を  
目指した授業改善を行う。